【別紙】

令和８年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立小中一貫校村山学園　　校長名：飯星　健司

【経営理念】

施設一体型小中一貫校の特色を生かし、多くの人との関わりの中で様々なコミュニケーションの場を通じて自立した一人の人間としての「人間力」を育成する学校を目指す。
（１）義務教育９年間での系統的・継続的な指導を見通して、人間力の育成を図る学校
（２）施設一体型の特色を生かし、「理想とする中学校卒業時の生徒像」の具現化に向け、小・中学校教員の「指導観の一貫」を目指す学校
（３）地域・家庭との協働により、コミュニティ・スクールとして信頼される学校

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長】
学校運営協議会（学校評価分）
第１回　　令和８年　７月１４日（火）
第２回　　令和　年１１月１９日（木）
第３回　　令和　年　２月１８日（木）

項目	計画・取組			自己評価（令和　年　月　日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全児童・生徒の基礎的・基本的な学力の確実な定着と学力向上	タブレットＰＣなどのICT機器を有効活用するとともに、デジタル教科書やデジタル教材を効果的に活用する。	タブレットＰＣの活用により学力の向上を実感したと回答した児童・生徒の割合が８０％以上						
		各教科の学習において、問題演習の時間を設定し、繰り返し取り組ませる。未来塾や夏季パワーアップ教室等を生かし、基礎学力の定着を図る。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。						
豊かな心の育成	人権尊重教育に基づいた、いじめ防止	児童・生徒の生活指導上の情報共有を図るとともに、いじめ防止策(アンケートや情報モラル教室の実施)を講じ、いじめの早期発見、早期対応を行う。	学校に安心して登校している児童・生徒及び安心して登校させられると回答した保護者の割合が９０％以上						
	特別な支援を要する児童・生徒への対応	SC、ＳＳＷ等と協働し、教育相談を充実させる。すくすくや４組、サポートルームの充実を図り、不登校を減少させる。	教員アンケートや対象の生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が８０％以上 不登校出現率が前年度以下						
健やかな体の育成	児童・生徒の基礎体力の向上	なわとび週間や持久走週間、持久走記録会、大縄大会などの取組を行い、運動習慣の確立を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「Ｃ」以上の割合が６０％以上又は総合評価「Ｃ」以上の割合が令和６年度調査との比較で向上している。						
	健康に過ごす意識の向上を図る	食育や薬学等を行い、自己の健康について考える機会をつくる。	生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が８０％以上						
まちづくり学習の充実	武蔵村山市や地域に愛着をもち、市の発展や課題について考え、問題解決に向けて取り組む児童・生徒の育成	各学年が実施する学習において、武蔵村山市の特長などについて気が付かせ、新聞などにまとめる。また、やってみかんパニーの活動を通じて、市内のみかん農家などとの関りを深め、武蔵村山市の特産についての理解を深める。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を７０％以上						
	市内・保護者・地域へ取組を周知する	学級・学年発表を保護者・地域へ学校・学年だより等で発信し、その取組を周知する。	保護者、地域アンケートで肯定的な回答が８０％以上						
学校裁量	講師や地域人材を活用した学習の推進	授業において地域人材を活用し、学習支援に当たることで、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	課題解決に向けて、有効に講師や地域人材の活用が図れたと感じる教員の割合が８０％以上						
	基礎的・基本的事項を向上させ、自己の将来について考える	各種検定やコンクール等に自主的に取り組ませ、学習意欲の向上と個性の伸長を図る。	各種検定資格を生徒の５０％以上がもっている。また、各種コンクールに生徒の５０％以上が応募した。						

※　到達度＝　達成値／目標値